

昭和七年五月

(臨時議會資料)

兵農決死隊事件顛末



警

保

局

(昭和十九年七月議會參考)

目次

一 事件ノ發生及被害ノ狀況 ..... 一

二 犯人ノ氏名及檢舉狀況 ..... 二

三 犯罪ノ動機及犯行ノ勸策 ..... 六

    1. 犯罪ノ動機 ..... 六

    2. 愛郷塾ノ指導精神 ..... 七

        (一) 橘孝三郎ノ經歷 ..... 八

        (二) 愛郷會ノ設立 ..... 一〇

        (三) 愛郷塾ノ開設 ..... 一〇

        (四) 自治農民協會ノ組織準備 ..... 一一

3. 犯行ノ謀議及事前ノ策動 ..... 一五

- (一) 軍人ト愛郷塾其他トノ關係 ..... 三五
- (二) 軍人及愛郷塾首腦部間ノ提攜 ..... 三七
- (三) 襲撃伺所ノ實地踏査 ..... 四一
- (四) 軍人トノ最後の謀議 ..... 四七
- 四 軍人決死隊ノ犯行狀況 ..... 五〇
  - 1. 行動隊長古賀中尉等ノ指揮活躍 ..... 五〇
  - 2. 首相官邸其他ノ襲撃 ..... 五二
- 五 農民決死隊等ノ犯行ノ狀況 ..... 六七
  - 1. 行動隊長後藤因彦等ノ指揮活躍 ..... 六七
  - 2. 變電所襲撃 ..... 七三
  - 3. 三菱銀行襲撃 ..... 八一
  - 4. 西田税暗殺 ..... 八三
  - 六 武器及資金入手ノ経路 ..... 八五

一 事件ノ發生及被害狀況

昭和七年五月十五日午後五時三十分頃首相官邸外  
 四ヶ所並今年後七時前後ニ東電各變電所ヲピストル  
 及爆彈ヲ以テ襲撃シ次表ノ如キ危害ヲ與ハタル事件  
 發生セリ。

襲撃場所	時刻	犯人氏名	武器	被害者	建造物被害	備考
總理大臣官邸	後五時四〇	表雲開 三上中尉 黒岩 中尉 候補生三名	ピストル五発	首相官邸 重傷 二人 死亡 一人		ピストル四五百 枚撒布
牧野内大臣邸	後五時二五	裏口 山岸中尉 村山 少尉 候補生三名	ピストル一発	山岸中尉 重傷 一人 死亡 一人	玄関附近小穴	途中ピストル三發 投擲撤布
政友會本部	後五時二五	中村中尉 候補生三名	手榴彈二個 (内一個不発)		玄関前コンクリート 叩キ一才位小穴	

警視廳 第三四 第五四	日本銀行	三菱銀行	西田 稅方	淀橋變電所	田端 尾久町	小沼 下尾久	鹿戸	鳴々谷 日越
後 四五三 四五四	後 五四〇	後 七三〇	後 七三〇	後 七四〇	後 七二〇	後 七四〇	後 八〇〇	後 七三〇
黒岩村中尉候補生三名	黒岩中尉村山少尉候補生三名	奥田秀夫	川崎長光	職人風男(温水)	白シメツノ男三人 (大貫高根次)	塙五百枝	天吹正吾	横須賀喜久男
ピストル三挺 手榴彈二個 手榴彈一個 (内二個不発)	手榴彈一個	手榴彈一個	ピストル六卷	手榴彈一個	手榴彈一個 金 手榴彈一個 (不発)	手榴彈一個 手榴彈一個 (使用せず)	手榴彈一個 手榴彈一個 (不発)	手榴彈一個
書記永阪(口) 証人若高(口) 自傷			西田 稅					
扉大硝子一枚 廣余前電話機 硝子五個及電線 切斷	正面入口ガラス一枚 小窓ガラス八枚 便所入口 三枚	ガラス十枚	胸三服六 右腕一、手掌一 命中、重傷	令卸装置建物 下部板固二、余六 モーター冷却、送 水器、ター四 夕被損	電氣スイッチ一個	令卸用備付ボルト スイッチ切斷	六万ボルト電圧器 土台一部破壊、冷却 用ボルトスイッチ切斷	
ビラ散布								

二 犯人ノ氏名及檢舉狀況

犯人中海軍將校六名(豫備一名) 陸軍士官學校生徒

一名(内一名甲途退學者)ノ之ハ五月十五日午後六時頃迄ニ

東京憲兵隊麹町憲兵分隊ニ自首シ今十八日夫々軍法

會議檢察官ニ送致サレタリ。

軍人以外ノ犯人ハ後述ノ如ク、指導人物橋孝三郎

ヲ除ク外夫々、警視廳、茨城縣、京都府、或鏡南道

關東廳等ニ於テ銳意取調中ナルガ犯人ノ氏名等次ノ

通りナリ。



三、犯罪ノ動機及犯行ノ劃策

ス 犯行ノ動機

本事件ハ客秋ノ所謂錦旗革命事件並本年ノ血盟團事件等ニ關係アリタル一部海軍之人ヲ中心トスル一團ト他面血盟團首領タル井上昭ト思想的ニ共鳴シ居タル茨城縣下愛郷塾長橘孝三郎ヲ中心トスルグルーフトノ共同犯行ニシテ犯行ノ計畫ハ血盟團事件直後ヨリ具体的ニ劃策サレツ、アリシモノノ如シ。而シテ其ノ思想的背景ハ血盟團事件ノ夫ルト略々相等

シキモノアリ。即チ現下ノ社會諸情勢ノ行詰レルハ腐敗セル既成政黨並之ノ傀儡トセル賤賤及特權階級等ノ批政ニ基因スルモノナレバ彼等ヲ脅懲スバ直接行動ヲ加ヘコレヲ導火線トシテ社會改造斷行ノ氣運ヲ促進セムトシタルモノナリ。

又 愛郷塾ノ指導精神

軍閥ニ於テ首相官邸外三個所ヲ襲撃スルニ際シ之ト相呼應シテ東京市内外ノ變電所襲撃ヲ行ヒ帝都ヲ暗黒化セシムトシタル所謂農民決死隊ハ其中心人

物橋孝三郎ノ率ユル愛郷塾生並其関係者ナリ。

(一) 橋孝三郎ノ經歷

橋孝三郎ハ大正三年第一高等學校文科(哲学科)  
ニ在學中強度ノ神經衰弱症ニ罹リタル爲メ三年ニシテ退學歸郷シ專ラ靜養シツ、アリシが大正五年四月頃右病症ノ治癒ト共漸ク其思想ニ變轉ヲ來シ「人類ガ正シク幸福ニ生クル爲メニハ歸農スルコトガ最善ノ方法ナリ」ト稱シ今年十月ヨリ東茨城郡常盤村ニ住居シテ農業ニ従事スルコトナリ、其後大正九年

十一月ヨリハ長兄ヲ除ク兄弟十名全地ニ居住スルコトナリタル爲メ俗ニ全地ヲ兄弟村ト稱スルニ至レリ。

孝三君大正八年頃ヨリ橋ガ農本主義愛郷運動ヲ主唱スルヤ那珂郡下小學校教員中ニ多數ノ共鳴者ヲ得大正十年末頃ニハ當時最モ熱烈ニ全主義ヲ信奉シ居タル那珂郡川田尋常高等小學校訓導後藤園彦(軒件四ノ参謀格)ニヨリ團體ノ組織ヲ提議セラル、ニ至レリ。

(二) 愛郷會ノ設立

斯クテ昭和三年十一月ニハ右後藤ノ發起ニテ那珂郡教育會々員古内榮司(血盟國事作人)等十數名兄弟村ニ會合シテ愛郷會ヲ結成シタルガ橘ハ其後講演會等ニヨリテ公會ノ擴充ニ努メタルタメ昭和七年五月現在茨城縣下ニ支部ニ九(内準備會一)支部員約四百名ヲ擁スルニ至レリ。

(三) 愛郷塾ノ開設

橘ハ右愛郷會ニヨリテ愛郷運動ヲ爲ス外昭和六年

四月十五日ヨリハ自營的農村勤勞學校愛郷塾ヲ設ケテ塾生ニ對シ常ニ「皇室中心主義兄弟主義並勤勞主義ニ基調セル農本主義(自ル國家)改造ノ必要」ヲ講述鼓吹シツツアリタリ、愛郷塾並綱領等次ノ如シ

塾長及塾生等ノ氏名(昭和七年五月現在調査ニカ、ル氏名ニ〇印アル者ハ今回ノ衆議演說隊員ナリ)

- 塾長 ○橘孝三郎
- 副塾長 ○林正三
- 教師 ○後藤園彦
- 杉浦孝
- 春田信義
- 會計 大槻敬三
- 林正五



塾生

- 青年部 ○大貫明幹 ○堀五百枝
- 矢吹真吾 ○小室力也
- 外 五名

少年部 (十一名)

愛郷運動綱領

一、大本

1. 愛郷運動は一切の不自然と不合理と腐敗墮落と大自然本来の合理性と健全状態と神聖へよみがへす為のものでなくてはならない。
2. 愛郷運動は一切の不安と動搖と土の安定さにてはならず運動でなくてはならない。

3. 愛郷運動は真心を捧げ受け容れ合ひつゝ、諸共ニ心から働く所の勤労生活者の兄弟主義團體によつて一切を創造すべし運動でなくてはならない。

二、政策

1. 愛郷會組織擴大
2. 愛郷主義純粹組合運動の普及進展
3. 自営的農民勤勞教育の創造充實。
4. 愛郷共済組合による保険の農村社會化、
5. 理想部落建設

愛郷會々別

1. 本會ハ愛郷會ト稱ス。
2. 本會ハ愛郷道ノ精神的開發機關タルヲ以テ使命ト

ナシシテ、研究部 教育部 傳道部ノ三部ニ分ケ  
其ノ使命ヲ果サムカ爲ニ適切ナル各般ノ事業ヲ遂  
行スルヲ以テ目的トナス。

三 本會々員ハ本會ノ使命ヲ体スルモノヲ以テナシ其  
ノ加入脱退ハ自由ナリトス。

四 本會ハ之ヲ本部支部ニ分ケ本部ハ茨城縣東茨城郡  
常盤村三口三九兄弟村ニ置キ支部ヲ各地ニスク。

五 本會々員ハ會費毎月一口（金拾匁）以上ヲ納メ本  
會が會員ノタメニ起シタル各種ノ事業ニ関與シ得  
ルモノトス。

### 愛郷會員心得

一 虚偽りなレレ本気で生きて行くこと、即ち真心の  
限りと盡して生きて行くこと、その真心の限りと  
授け受け容れ合つてお互に共に共に諸共に手を引き合  
つて生きて行くことが愛郷道の真精神であります。  
愛郷會々員皆様はこの愛郷道の真精神と生きて行  
く人でなくてはなりません。これを愛郷者と申し  
ますが第一はその愛郷者になつていたいからなくては  
なりません。

二 愛郷者は心得大本第一に示す所に従つて何ありも  
愛郷者の團結を固く、いやが上になほ固く致さね  
ばなりませんのですがその拠る所を天地大自然の  
恩恵のある所に求めなくては外に拠り所がない。

といふことをよく／＼おわきまへ下さい。そして  
天地大自然の恩恵の所有即ち大地の上のしつかり  
生活と打立て、いよいよかおばりませぬ。

三、會員心得  
大本の一及び二は愛郷者としていつても  
忘れあつては叶はぬのであります。更にもその心得  
の育様は誠に困つたものであります。只今世の中  
りまして如何なる事柄を見ましても情なき事は  
かり人はくさり果て、社會は亡びさうに思はれます。  
そこで之をどうしても正しくすこやかにしつかり  
とし、ものしねばなりません。この務を最もよ  
く悟つて余かけでがんばらねばならぬと言ふ事が

又愛郷者の最も大事の使命と爲つてあるから、  
して愛郷會を員皆様はよく／＼この所を御理解下つ  
て、大覺悟を以て愛郷道眞精神を現實の空かし、い  
よいよかおばりませぬ。

### 愛郷會支部會員心得

- 一、支部會員皆様は是非愛郷會眞心得大本を御存心  
み下つて支部を起し、しつかり目的使命のある所に往  
ひ愛郷道の實際を行き、使途になつていよいよ  
二、それであつてと相違なくやうなことは避けてい  
き、いよいよ敬ひよく愛し合つていよいよ  
三、相互なるべく機械の利用組合とか共同購買とかいふ  
やうな経済的協同運動の實際を愛郷道精神に基き

ていた。講演會、座談會、研究會等と聞き、精神的開發の實際運動と大いに進んでいた。何事によらず起していた。

四、相いつも本部と力完全な連絡とつて又各支部間の協同運動を圓滑に能率的にいたすやう努めていた。

五、何時も農村を救ふものは農民以外にないことをお忘れなく、みつちりとやつていた。

六、いつも愛郷道精神と生きてる我々愛郷農民こそは眞に正しく眞に價値ある眞に幸福な生活と學んで居るのであると同時に我々愛郷農民でなくしては只今の困つた、この世の中を建て直す考へがない。

七、いつも我々愛郷農民のつとめをお忘れなく、様にそれをすでも分でも御業し下さる様にしては

八、團結第一、真心第一、これは大本に示す通りであります。

良くと肝心と心得ていた。

四 「皇岩農長協會」係組織準備

叙上愛郷運動綱領ニモ明カナル如ク橘孝三郎ノ主

唱スル愛郷運動ハ從前ハ政治運動タルヨリモ寧ロ純

農村自営運動ト目サレ、茨城縣廳ニ於テモ援助的態度

ヲ採リツ、アリタルモノナルガ偶々橘ノ思想が権藤

之が影響、受テ革命的トナリ

成郷井上昭及古賀中尉等ト相知ルニ至リ殊ニ本年三

月所謂血盟團事件後コレニ刺戟サレ急激ニ實踐的傾

向ヲ帯ビ来レルモノ如シ。即チ本年三月二日、三日

芝協同會館ニ於テ結成大會ヲ舉行シタル農本聯盟(願

問推藤重信<sup>7</sup>成郷ノ別稱<sup>7</sup>書記長山川次郎<sup>7</sup>茨城縣人常  
任委員加藤一夫、犬田卯、中沢辨次郎、岡本利吉、  
外十名<sup>7</sup>ニハ愛郷塾ヨリ橋孝三郎、杉浦孝ノ二名常任  
委員トシテ選出サレ居レルガ、次イテ事件通前橋ハ  
自ラ自治農民協會<sup>7</sup>ノ組織ヲ企テ（其綱領草案後記）  
之カ宣傳ノ目的ノ下ニ五月九日水戸市上市南三ノ九  
常磐食堂ニ茨城縣内務部長代議士等約三十余名ヲ招  
待シテ座談會ヲ催ス所アリ。席上、全人ハ社會改革  
ノ方法論ニ付テモ 都市ノ資本家ノ屋上ニベシ

草ヲ生ヘサシムル程度ニ至ラザレバ眞ニ農村ハ救済  
サレズ<sup>7</sup>等相當矯激ナル意見ヲ述ベタル爲、内務部  
長等ハ其主張ノ從來ト異リ著シク急進的ナルニ奇異  
ノ感ヲ抱キテ其非ヲ駁論シタル事實アリ。尚橋ハ五  
月二十日付ニテ日本愛國革新主義<sup>7</sup>ナル著書ヲ發行  
（吾志<sup>7</sup>禁止、發行者ハ后述犯人）シタルガ其卷頭ヲ見ルニ、  
藏匿ノ疑<sup>7</sup>坂上眞一郎<sup>7</sup>ト題シ（前畧）日本ハ尊嚴極ミナキ皇室ヲ中心  
トシテ世界ニ比ナキ團結カヲ有スル日本同胞ノ愛國  
同胞主義ニヨル日本タラザルベカラズ、……唯愛

國革新ノ斷行アルノミ。生命ニ價スルモノハ唯生命  
ヲ以テノミスバシ。日本愛國革新者ヨ、日本愛國革  
新ノ大道ノ為ニ死ヲ以テ、唯死ヲ以テ立テ。ト煽動的  
言辭ヲ弄シ、又其内容ニモ「革新ヲ呼ぶ者は先づ身と  
國民に捧げて立をねばなりません。……救國済民  
の大道にたゞ死を以て捧げたる志士の一團のみよく  
革新の國民的大動行を率いて立ち得べく、國民大衆  
はまたかくの如き志士レのみ従ふ外はないのであり  
ます。……日本の現狀に訴へて見る時何処よりも先

に皆様の如き軍人層にかやうな志士を見出す外はな  
いのであります。そして之に應ずるものは何よりも  
農民です。日本は由來兵農一致することによつての  
み日本をり得るのです。」(八〇頁―八一頁)「日本愛  
國革新の本道と歩まんとする場合、たとえ如何なる立  
場に立てる人物と雖も、如何なる有為の逸才たりと  
も大道と賣る如きものに對しては立所レ一刀兩断あ  
るのみです。」云々(八二頁)等々隨所ニ最近激化セル  
彼が思想ノ片鱗ヲ明瞭ニ顯現セシムルニ至レリ。

自治農民協會 宣言、綱領、政策、規約草案

宣言

自然にして治まる我成俗の公例は既に太古に始り神武建國に至り確立され成務朝に至り成文立制となり大化革新に大成した。其後平安朝を経て著しく紊れしが鎌倉幕府に至り變態的ではあるが自治の精神は復興した。然るに其後自治の影漸く薄く殊に徳川三百年の官治により僅かに縷の如き命脈を郷村に留めし。然るに明治以降我傳統の自治を復興するに誤れり所村制により一脈の自治を根滅した、ゆえに

民は徳川以来四百年に近き官治により全く去勢され進取の氣力を失ひたゞ官の爲すに任せて睡生夢死するのみ。然も官治の結果は官公吏の激増となり政費は十數億に達し人民は負担に苦しみ民意上に達せず政務渋滞して官場は腐敗の極に達し弊害百出して止む處を知らざる有様である。此皆自治頹廢の結果である。

我民族は古來利己を排し共存を旨とした。然るに明治以降歐洲に發生した商工中心の營利主義は我國に輸入され溜々として農村をも犯し其の在來の經濟機構を破壊し農村より農産物の加工、配給權を奪ひ農産物を商品化しこれにより都市は大々的發展を遂



げ帝都五百万、大阪三百万の人口を擁するに至つた。  
この都市繁栄、商工発展の裏に農村の荒廢と農民の疲  
弊とがあつた。農村は凡てに於て空虚と成り、残  
されたものは莫大なる借金と背負いきれぬ負担と窮乏  
との生活のみである。金權萬能の思想は金力に無限  
の活動と許しを認め、大衆生活の根源たる土地、礦山、交  
通機関、工場等は金力の独占に歸し、私利の具として使  
はれかくて多數の無産者を生じて階級闘争を激発せ  
しめた。又金融の權が一部富者の手に歸し、莫  
大なる金利が彼等の懐に流れ込み、富者として益々富ま  
しめ、貧者をして益々貧ならしめ、食なく衣なく住なく  
の民は列る處と充滿し、國を挙げて生活不安のドン底

に投げ込まれた。

精神的には我國古來の純情を本とし、凡習は壞れ

虚飾の風、汎く人心を侵し、淫靡奢侈、廢徳は都鄙を風靡

し、徳義地を拂ふに至つた。

もしこの儘にして進まぬか、日本は二國滅種の外に  
からん。これが救済には一大革新を要する。それには  
禍根が官治と官利にある以上は、これら一切のものが  
革正されなければ、眞に人民は救はれない。即ち官  
利に發した利己的な經濟機構、自治に反する一切の  
官治官僚化し、且賤賤の走狗と成れる既成政黨の如き  
これである。更に之等と代らんとし、新を起りつ  
、ある一切の非日本的なものも打倒されねばならぬ。

議會不信用と飢餓の政治の滯滞の果して起り来つた官僚独裁の復活運動、都市無産階級により依然として農民と誅求搾取せんとする官僚的非共存運動或は之等の合成体等は皆農と本とする我建國の精神に合せず當然精算されねばならぬ。之等一切に代つて起るべきものは自治共存の農民運動の他とあり。

現在の都市<sup>まとして</sup>官僚と営利業者と其従属者との合成になる農村寄生者の集合体に過ぎず、こゝに醸成さるゝ一切の革新運動が官僚的利己的なことは自然である。商工業の産業支配は凡てを營利化し今日の窮状に陥れた。農業のみが純粹な共存共済の上で立ち得るから農と本として産業が打建てられ其の上で農

工礦等が民衆生活の充足のため分業する時始めて共存共済の經濟組織が確立する。又國の基礎は土地と人との結合であり其の土地と人との結合の上に自治が行はるゝ時一國の基礎は鞏固不動となりこの共同自治團體が皇室の藩屏として全民衆が皇室を捧持する時我國体の基礎は君民共治萬代不易となる。農村から自治を取上げて行はるゝ凡ての政治は結局官僚獨裁に隨する。現在の官治は勿論プロレタリアートの獨裁と國家社會主義もやがて一部官僚の獨裁に顛落してゐることは現に實例が示してゐる通りである。こゝに於てか眞の革新は農村自治に立脚したものでなければならぬ。

農村自治による革新のためには農民の自覚と全国的團結を必要とする古今東西の歴史はかつて農民の自覚による一國改造の實行を記録してゐない。然るに今や農民は漸く自覚しつゝある。これ人類史上の劃期的事實として最も花びるべき現象である。今や轉換期に際會し混沌として行く所を知らざる日本の現状に於てもし農民が速かに自覚と團結を強化しなれば我々歴史上の一大不幸軍が出現し農民自身も亦永久に救はれなうであらう。この人類史上の光輝ある一大役割を果すべき時期は迫りつゝある。全農民は蹶起して團結せよ。農民を救ふ者は農民自身の外にはない。農民自治によつてこそ日本も救はれ世界も

亦救はれん。

### 綱領

- 一 政治的には我が社稷體統を固く確立す。
- 二 経済的には我が共存共済の原則により農を本として衣食住物貨の充足に努む。
- 三 教育は人の性能を陶冶するを以て目的とす。
- 四 外交は彼我協和の主旨を重んじ有無疎通を以て目的とす。

### 政策

- 一 自給自足を實行し營利經濟より厚生經濟に遷る其のため現状に於て實行し得る一切の自給手段を取る。又共存互済の原則により産業組合を改造し且

つその發展を図る。

二、農民生活保證のため自治所々の食糧貯蔵を図り其配給權を確立す。

三、村内に居住せざる者の土地所有及侵耕を排斥し地主の作付義務の裁定を促成す。

四、農家負担の根本整理を遂行す。

五、農家負担の軽減をはかる。

六、代表選出の弊習を戒飾し自治結束を以て公民權の振張をはかる。

七、滿洲移民を農民の手によつて實現するに一切の準備調査を怠らず。

3、犯行ノ謀議及事前ノ策動

(一) 軍部ト愛郷塾其他ノ關係

所謂血盟團事件ノ中心人物タリシ井上昭が昭和四年末茨城縣磯浜町護國堂ニ日蓮宗ノ布教ヲ爲シツ、アリシ當時全所ニ出入シツ、アリシ霞ヶ浦航空隊將校古賀中尉ハ一面愛郷塾ノ橋トモ知己トナリ後藤モ亦昭和六年九月頃井上が上京ニ決シタル頃ヨリ全中尉等ト面識ヲ得、今年十二月浦新紫山塾ニ於テ行ハレタル橋ノ滿蒙問題ニ関スル講演ニハ古賀中尉中尉

等々出席シテ之ヲ聴取シ又本年一月ニハ霞ヶ浦航空  
隊ノ教官及學生等十八名ハ橋孝三郎ヲ招聘シテ農村  
問題ニ関スル講演ヲ聴取スル等益々両者ノ間ニ親密  
ノ度ヲ加ヘ社會改革ニ関スル意見モ相一致スルニ至  
リタリ。

然ルニ偶々所謂血盟團事件ノ勃発ニヨリテ著シク刺  
激サル、所アリ次項ニ於テ詳カナル如ク該事件直後  
ヨリ今田、藤田、於、山、田、等、具體的謀議ヲ爲  
スニ至リ急速ニ之ガ實行々爲ニ迄發展スルニ至レリ。

又古賀中村両中尉ハ敘上ノ如ク橋孝三郎、後藤園彦  
ト緊密ナル連絡ヲ保持スル一面本年二月頃ヨリハ陸  
軍士官學校中途退學者池松ヲ通シテ士官候補生ヲ此  
拳ニ参加セシメ又豫テ面識アル川崎長光、奥田秀夫  
(明大生)等ヲモ右別ニ所謂別動隊トシテ参画セシ  
ムルニ至レリ、斯クテ海軍將校側特ニ古賀中尉等ガ中  
心トナリテ右方面ニ連絡策應シテ今回ノ帝都ニ於ケ  
ル不穩事件ヲ敢行シタルモノナリ。

(二) 軍源及愛郷塾首脳部間ノ提携

本年三月所謂血盟團事件后軍人側古賀中尉、中村中尉、池松(士官候補生)塾側橋孝三郎、後藤園彦、林正三、明大生奥田秀夫等ハ茨城縣土浦町山水閣ニ屢々會合シテ今回ノ犯行ノ謀議ヲ進メタルガ古賀中尉ハ其都度「血盟團事件ノ後ヲ受ケテ實行ニ移ルハ我々ノ責務ナル」旨ヲ強調スル所アリ他面橋孝三郎ハ當時塾生ニ對シ「農村ノ疲弊ヲ救フ爲ニハ合法手段ニテハ不可能ナレバ一身ヲ犠牲ニスルモ敢行セザルベカラズ」ト煽動シ血盟團事件ニ付キテモ「法律上

不法ナリトスルモ、其間一點ノ私心ナク一身ヲ社會改造ニ捧クルハ男子ノ本懷ナリ」ト稱讚シ居タルガ古賀中尉等ノ勸説ヲ受クルマ自ラモ亦進ンデ其等ニ參加スルコト、ナリタリ。カクテ

(1) 軍人側ニアリテハ既ニ四月下旬土浦町ニ於テ古賀中村山岸三中尉會合シタル時古賀中尉ヨリ「犬養首相、牧野内大臣、政友會本部ヲ三組ニ分ケテ襲撃シ途中警視廳ヲ襲ヒ右々憲兵隊ニ自首スレベク計劃案ヲ示シテ謀議スル所アリ、

(ロ) 愛郷塾ニアリテモ、四月中旬頃、橋塾長ヨリ小室、大貫、矢吹、塙、温水（春田ハ出征中高根沢、横須賀ハ塾生ニ非ザルヲ以テ出席セズ）ニ對シ「軍需ニ於テモ我々ノ愛國革命ニ賛シ非常手段ニ用フル爆彈ノ交付ヲ受クル事トナリタルヲ以テ充分ナル活動ヲ望ムル旨ノ激勵ヲ與ヘ先ツ變電所襲撃ニ付テノ豫備知識ヲ授クル爲橋引率ノ下ニ後藤園彦外青年部員計十二、三名ニテ水戸市内東部電力株式會社ヲ見学シ詳細ニ變電所ノ機械器具等ノ説明ヲ受ケ豫メ備フルトコロ

アリタリ。

斯クテ四月二十三日ニ至ルマ、土浦町山水閣ニ於テ古賀中村中尉、橋後藤ノ四名會合シテ「軍人側ハ首相官邸其他、塾生側ハ東京市内外ノ變電所ヲ襲撃スルコト、時期ハ五月中ト決シ、其後モ古賀中尉ハ屢々秘ニ愛郷塾ヲ訪問シテ橋等ト謀議ヲ凝ラストコロアリ又塾生ニ對シテハ全月二十八日後藤ヨリ個々ニ右計劃ヲ示達シテ決意ヲ求メタリ。

(三) 襲撃個所ノ實地踏査

(イ) 然シテ四月三十日ニハ林、後藤先ヅ上京シテ、  
一行 上京后ノ實行計劃 打合個所ヲ青山青年會館  
ニ豫メ定メ、翌五月一日ニハ橋ヨリ「愈」決行ニ着  
手スルニ旨ヲ塾生ニ指令シ、自ラハ産業組合中央會  
茨城支部囑託員トシテ表面滿洲國視察ヲ名トシ、先  
ヅ小室、塙、矢吹、大貫ノ四名ヲ帶同シテ堂々上京  
ノ途ニ着キ其他ノ者モ亦各自理由ヲ構エテ秘ニ上京  
セリ。

(ロ) 然シテ翌ニ日ヨリハ、市内ノ木賃宿等ニ各人各  
別ニ居所ヲ定メ、同志間ニモ其宿所ヲ嚴秘トシ、温  
水ニヨリテ相互連絡セシムルコト、爲シ、右々或ハ  
圖書館ニ通ヒテ變電所ノ構造ヲ研究シ或ハ變電所附  
近ノ實地踏査ヲナシ或ハ目標變電所ノ見學等ヲ爲シ  
目的個所ノ地理及爆破方法等ニツキ豫メ詳細研究ス  
ルトコトアリ。

(ハ) 一方後藤園彦ハ五月一日前叙實行計劃、打合場所  
ヲ定メタル上直ニ全夜東京ヲ出發シ奉天ニ向ヒ全地  
ニ於テ警務廳ニ谷憲兵中佐、自治指導部口田康信等



ニ會見シ本事件決行後ニ於ケル塾生ノ逃走ニ便宜ナ  
ラシムル爲ノ諸般ノ準備ヲ整ヘタル上、五月九日歸京  
同夜直々ニ土浦ニ赴キ古賀中尉黒岩豫備少尉ト連絡  
ヲ爲シ全地ニ黒岩ト共ニ宿泊セリ。

(二) 斯クテ後藤ハ翌五月十日朝上京同夜青山青年會  
館ニ於テ

橘孝三郎	後藤園彦
林正三	塙五百枝
春田信義	矢吹正吾
大貫明幹	小室力也
温水秀則	横須賀赤久男

等十名集合シテ各々変電所踏査ノ結果ヲ報告シタル  
ガ、橘ヨリ「愈々決行ハ五月十五日ニシテ當日ハ軍  
火ニ於テ要路ノ大官ヲ暗殺スル手筈ナルヲ以テ指定  
変電所ヲ襲撃爆破シ市内ヲ暗黒化シ以テ帝都ヲ混乱  
化セシメ軍火ノ活動ヲシテ意義アラシムベク特別ノ  
努力ヲ望ム」ト煽動シ各龍襲撃スベキ変電所ノ担当ヲ  
決定指示シタリ。

(六) カクテ橘孝三郎ハ變電所襲撃ニ對スル計劃ノ一切  
ヲ完了スルヲ見届クルマ愛郷塾及變電所襲撃行動隊

ニ関スル後事ヲ夫々林及後藤ニ託シテ自ラ春田信義四六  
ヲ伴ヒテ五月十二日夜東京ヲ脱出シテ滿洲へ赴キ夕  
リハ春田ハ五月二十一日長春ニテ逮捕サル

(四) 軍又トノ最後の謀議

後藤因彦ハ五月十三日豫テノ打合せニヨリ軍部側  
トノ最後の謀議ヲ為スヘク土浦所ニ赴キ全地山水閣  
ニ於テ。

軍人部死衛

古賀、中村両中尉

池松(士官速成學校)

別働隊

奥田秀夫(明大生)

農民決死隊

後藤因彦

各代表  
ノ五名會合シテ密議ヲ凝ラストコロアリタルが席上

古賀中尉ヨリ大要次ノ如キ分担ヲ説明シテ最後の決四七

是ヲ為シタリ。

第一班

目標 首相官邸

班員 三上中尉 山岸中尉 村山少尉 黒岩少尉

後藤映範 篠原市之助 石関 栄、八木春雄

野村三郎

第二班

目標 牧野内大臣邸

班員 吉賀中尉 坂本謙一 菅 勤 石川武敏

池松武志

第三班

目標 政友會本部 警視廳

班員 中村中尉、中島忠秋 金清 豊 吉原政巳

別動隊

(1) 川崎長光ハ 西田 税

(2) 奥田秀夫ハ 三菱銀行尚首相官邸牧野内府邸

工業俱樂部ノ状況偵察

(3) 後藤園彦ハ 農民隊ヲ指揮シ變電所

而シテ之レガ實行ハ五月十五日午後五時半變電所

ハ午後七時ト定メ第一班ハ午後五時靖國神社境内ニ

第二班ハ今時刻高輪泉岳寺第三班ハ今時刻新橋驛ニ

集合他ハ夫々今時刻ヲ期シ一斉ニ決行スル事ニ決定

ス

シ尚第一、第二、第三班ハ決行後全部警視廳ヲ襲撃シタ<sup>五</sup>。  
ル後憲兵隊ニ自首スル事トシ海軍側ニハ古賀中尉陸  
軍側ニハ池松ヨリ、之ヲ指令スル事トナリ奥田後藤ニ  
ハ別ニ手榴彈ヲ交付スルコト、シ散會シ後藤ハ歸途  
古賀中尉ヨリ川崎ニ交付スベキ拳銃一挺實彈六発並  
ニ短刀七振ヲ交付サレタリ。

四軍<sup>海軍</sup>謀<sup>謀</sup>隊ノ犯行 狀況

ノ行動隊長古賀中尉等ノ指揮活躍  
前殺ノ如ク古賀、中村両中尉ハ橋、林、後藤等ト

緊密ナル連絡ヲ為ス一面、他ノ將校並池松ヲ通シテ  
陸軍士官候補生等ト屢々會合謀議ヲ進メ、<sup>リ</sup>リ又

(1) 古賀中尉ハ既ニ四月下旬中村、山岸両中尉ニ會同  
ノ實行計劃案ヲ示シ居レルガ其後五月七日(日曜)  
ニハ山岸、村山等ト上野驛ニテ待合セ今夜市外大森  
某料理店ニ宿泊翌五月八日明治神宮参道附近ニ至リ  
古賀中尉ノミハ原宿驛ニ待合セタル士官候補生二名  
及黒岩、池松ヲ連行シ來リ計七名ニテ神宮参道附近<sup>五</sup>

二階建ノ屋内ニテ實行シ協議スル所アリタリ。

五二

(四) 越エテ五月十三日ニハ中村ト共ニ前記土浦町ニテ後藤等ト最後の謀議ヲ終ヘタル後十四日ニハ上野駅

ニ待合セタル三上、黒岩ト共ニ芝公園水交社ニ至リ

テ策謀シ今夜午駄々谷原宿ニ於テ奥田秀夫ニ手榴彈

ニ個ヲ手交シタル后右三名ト共ニ神樂坂待合松ヶ枝

ニ泊ヤリ。

又、首相官邸其他ノ襲撃

五月十五日午前八時三十分右待合ヲ出發シテ午後

三時頃芝公園ニ至リ一同集合シタルが其間三上中尉

黒岩豫備少尉ハ神田區鎌倉河岸堀井騰寫版店ヨリ騰

寫版一式ヲ購入シ來リ水交社ニ於テ「日本國民」概

ナトト題スル後記印刷物約一千枚ヲ印刷シテ携行シ

他ノ將校等ニ武器ヲ分配シ各自自動車ニテ集合場所

ニ赴キタリ。

(一) 第一班ハ三上、山岸、黒岩、村山各海軍將校並

後藤、篠原、石岡、八木、野村各士官候補生ニシテ

午後四時三十分頃靖國神社境内ニ集合參拜シタル後

五二

表門（三上中尉、黒岩少尉士官候補生三名）裏門（山岸中尉、五四

尉村山少尉、士官候補生二名）ノ両所ヨリ首相官邸ヲ襲撃

スベク各一臺ノ自動車ニ分乗シ官邸玄関ニ自動車ヲ

横付け直チニ土足ノ儘ニテ官邸内ニ侵入シテ首相ノ

所在ヲ探索シタルニ發見スルニ至ラズ一度玄関ニ

引返シタル時背廣服着用ノ事務員風（四十才位）ノ男

立出テ用向ヲ問ヒタル為三上中尉ハ「海軍大學副官

が面會ニ来リタリ」ト稱シタルが之ト相前後シテ候

補生中ヨリ拳銃ヲ發射シタルモノアリ、再び犯人等一

同ハ官邸内ニ入りテ探索ヲ開始シ三上中尉モ亦拳銃

一發ヲ發射シツ、日本間ニ至リタル際首相ヲ發見シ

タル為應接間ニ同行シタリ。

首相ハ應接間ニ端座シ三上中尉等ニ對シ「物事ハ話

セバ解ルカラ先ツ靴ヲ脱ガレ度シレト述べタルニ

三上中尉ハ「問答無用ナリ撃テソ」ト號令セルヲ

以テ黒岩少尉ハ約四尺ヲ隔テタル所ヨリ第一彈

ヲ發射シタル為首相ハ左腹部ヲ抱ヘ机上ニ俯伏シタ

リ。次テ三上中尉ハ更ニ第二彈ヲ發射頭部（右耳上）

五五

ニ命中シタルヲ以テ其儘一同官邸裏門ヨリ逃走五六セシ  
トシタル際守衛ラシキ男追跡シテ攻撃セントシタル  
為之ヲ拳銃ニテ狙撃シツ、官邸ヲ出テ菱橋角ニ於テ  
團々タラニ臺ニ分衆シ山岸、三上、及士官候補生三名ハ直  
チニ廻町憲兵分隊ニ自首シタリ。黒岩、村山外二名  
ハ右三上等ト別レ警視廳前ニ於テ自動車ヲ停車セシ  
メ警視廳玄関ヨリ拳銃ヲ擬シツ、二階ニ上リタルモ  
其儘引返シテ自動車ニテ東京憲兵隊門前ニ至リ、三  
上等ノ自首如何ヲ確ム可ク憲兵隊周囲ノ柵外ヨリ内

部ヲ覗見セントシタルガ此時警視廳ヨリ自動車ニテ  
犯人等ヲ追跡シツ、アル男アルヲ感知シ之ニ向ツテ  
拳銃ヲ射撃シ更ニ自動車ニテ日本銀行ニ赴キ公銀行  
表門前ニテ村山及候補生一名下車シ候補生手榴彈一  
個ヲ投擲シ直ニ一同自動車ニテ東京憲兵隊ニ自首セ  
リ。  
回第二班 古賀中尉以下坂本、菅、西川、池松退中  
各候補生等五名ハ午後四時三十分頃芝區高輪泉岳寺  
門前ノ料亭ニ階ニ集合シ古賀ハ各自ニ拳銃及手榴彈

ヲ交付シテ午後五時頃会所ヲ出發シ一同圓タリニ乗  
車シ目的地タル牧野内府邸ニ至リテ下車今即表玄関  
ニ向ヒ手榴彈一個ヲ投擲爆發セシメタルニ折柄同邸  
警戒中ナリシ福井巡查ハ古賀中尉ニ向ヒテ攻撃ノ氣  
配ヲ示シタル為直チニ同中尉ハ拳銃ヲ以テ同巡查ヲ  
狙撃シタリ。此間池松モ手榴彈一個ヲ玄関ニ向ヒテ  
投擲シタルモ不発ニ終リタル為一同ハ再び自動車ニ  
テ警視廳ニ向ヒ途中後記「日本國民」に撒テト題ス  
ビラヲ撒布シツ、午後五時四十分頃警視廳玄関ニ停

五八

車シ古賀中尉ノミハ自動車ニ残留シ他ノ四名ハ下車  
シテ手榴彈二個ヲ建物ニ向テ投擲シタルが何レモ  
不發ニ終リタリ。此間廳外ニ十四、五名ノ男出テ来リ  
タル為古賀中尉ハ自動車内ヨリ接近シ来レル一巡  
査ニ向ヒ拳銃ヲ發射他ノ候補生亦玄関ニ向ヒテ拳銃  
ヲ乱射シ更ニ自動車ニテ趨憲兵分隊ニ自首セリ。  
ハ中村中尉ノ指揮スル第三班ハ午後四時三十分頃新  
橋駅前ニ士官候補生三名ト集合シ自動車上ニテ候補  
生等ニ手榴彈二個、拳銃二挺ヲ手交シ約一時間市内

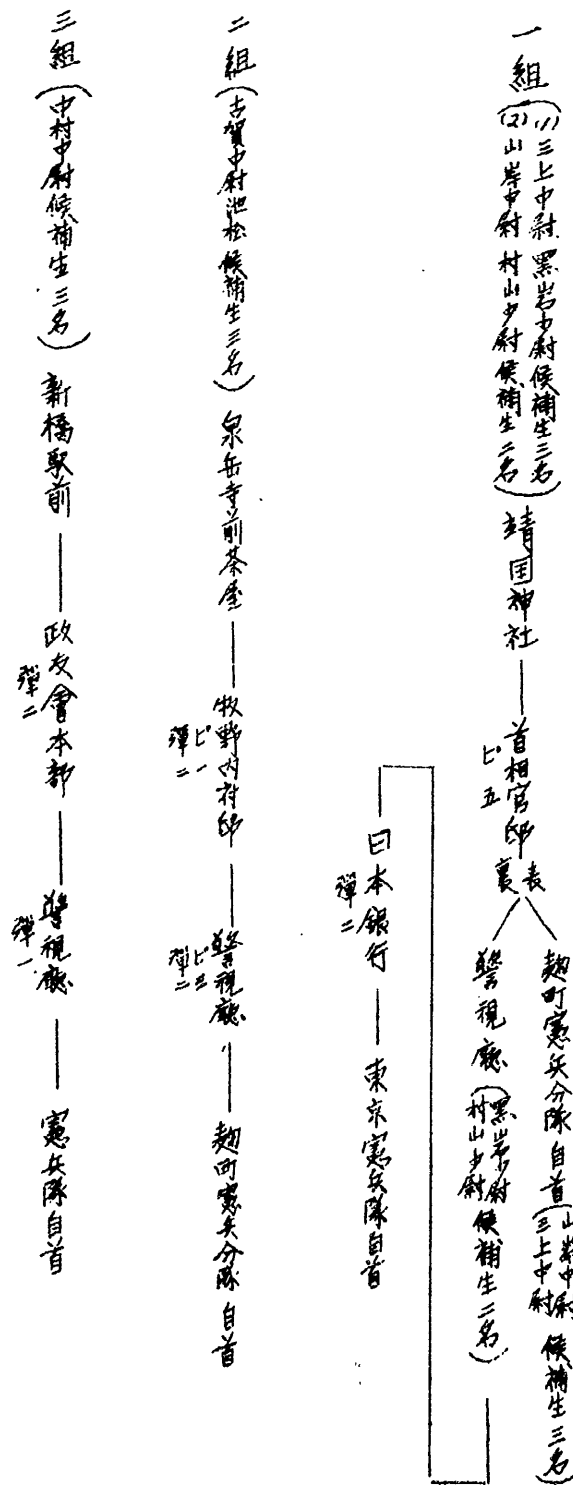
五九



シドライヴセシメ午後五時三十分頃政友會本部正門<sup>ホ</sup>  
前ニ停車シ中村中尉ハ手榴彈ヲ投擲シタルモ不発ニ  
終リタルヲ以テ更ニ之ヲ拾ヒテ投擲シタルモ依然爆  
發セザル為 候補生ノ所持セル一彈ヲ投擲セシメタ  
ル處轟然爆發シタリ。カクテ犯人等ハ再び自動車ニ  
乘シ運轉手ノ腰部ニ拳銃ヲ擬シ「言フ事ヲ聞カネバ  
國家ノ為命ヲ貰フレト洞喝シツ、警視廳ニ向ハシメ  
警視廳玄関前外部ヨリ廳舎窓ニ向ツテ手榴彈ヲ投擲  
シタルモ不発ナリシ為メ再び之ヲ拾ヒテ投擲シタル

ニ電柱ニ當リテ破裂シタルヲ以テ一同同所ヨリ自動  
車ニ乗車途中、後記日本國民ハ概テト題スルビラ  
三百枚ヲ撒布シツ、憲兵隊ニ自首各々概不當初ノ計  
劃通り襲撃並暗殺ヲ敢行シ冒頭記載ノ如キ危害ヲ興  
ヘタルモノニシテ右行動ヲ表露スレバ次ノ如シ。

軍人行動表



日本国民に激す

日本国民よー、

刻下の祖国日本を直視せよ

政治、外交、経済、教育、思想、軍事——何處に皇国日本の姿ありや  
 政権党利に首いたる政党と之に結托して民衆の膏血を搾り  
 財閥を更に之を擁護して壓制日に長ずる官憲と軟弱外交と  
 墮落せる教育と腐敗せる軍部と悪化せる思想と塗炭に苦し  
 む農民、労働者階級と而して群衆す、口舌の徒と——  
 日本は今や斯くの如き錯謬せる墮落の淵に既に死なんとして  
 る。

革新の時機——今にして立たずむば日本は亡滅せんのみ  
 国民諸君よ  
 武器を執つて立てり、今や知家救済の道は唯一の直接行動以

外に何物もない

国民よー、

天皇の御名に於て君側の奸を屠れ、

国民の敵たる既成政党と財閥を殺せ、

横暴極まる官憲を膺懲せよ、

奸賊特権階級を抹殺せよ、

農民よ労働者よ、全国民よ

祖国日本を守れ

而して――

陛下聖明の下建国の精神に叙り国民自治の大精神に徹して

人材を登用し翺ろかな維新日本を建設せよ

民衆よ、

この建設を念願しつゝ、先づ破壊だ、

凡ての現存する醜惡な制度をぶち壊せ、

盛大なる建設の前には徹底的な破壊を要す

吾等は日本の現状を哭して赤手世に免けて諸君と共に必和維

新の炬火を点せんとすもの

素より現存する左傾右傾何れの團體にも属せぬ

日本の興亡は吾等(国民前衛隊)決行の成否に非ずして吾等の精

神を押し續起する国民諸君の実行力如何に懸る

起て、

起つて真の日本を建設せよ、

昭和七年五月十五日

陸海軍青年將校  
農民同志

五 農民決死隊等ノ犯行狀況

ノ行動隊長後藤園考ノ指揮活躍

(1) 前叙ノ如ク橘孝三即ヨリ農民決死隊ノ指揮一ツヲ  
委ネラレタル後藤園考ハ五月十三日土浦町山水閣ニ  
於テ軍人等トノ謀議ヲ終了シタル後今夜直ケニ歸京  
林正三ニ對シテ右會議ノ模様ヲ告ケ川崎ニ交付スベ  
キ拳銃彈丸短刀一振ヲ托シタリ

(2) 又林正三八五月六日豫テ古賀中村西中尉ヨリ指示  
ヲ受ケ居タル市外下十條里岩豫備少尉方ニ赴キ手榴六七

彈六個ヲ受取りテ實兄牛込區五軒所林正一方ニ隱匿  
 シ置キタルハ五月十四日朝ニ至リ 右手榴彈ヲ上野  
 池ノ端八千代館ニ投宿中ナリシ後藤ニ交付シ令人ハ  
 豫テ橋ヨリ後圃ヲ策スベク指示サレタル通り茨城縣  
 ニ歸リ後述ノ通り西田親ヲ暗殺セル川崎長老ニ前叙  
 後藤ヨリ托サレタル拳銃短刀一振ヲ手交シ上京セ  
 シメタル上令人ハ愛御塾ニ下リテ素知ヲ又體ニテ塾  
 ノ事務ニ從事シ居タルハ十六日茨城縣ニテ逮捕サレ  
 タリ。

一方後藤國考ハ古賀中尉及林ヨリ手交サレタル右  
 武器ヲ次ノ如ク十四日夜迄ニ夫々交付ヲ了シ

- 高五百枝 手榴彈二個 短刀二振 (大貫(渡)ハ各二)
- 横須賀喜久男 全 一個 全 一振
- 小室カ也 全 一個 全 一振
- 温水秀則 全 二個 全 一振 (矢吹(渡)ハ各一)

犯行當日タル十五日朝ハ高 横須賀、矢吹、温水等ヲ伴  
 ヒテ川崎長老ヲ有線鴛谷駅ニ出迎ヘタル上令所ニテ  
 一同ト訣別シ川崎ノミヲ伴ヒテ一旦八千代館ニ歸リ

更ニ川崎ノ希望ニヨリテ芝公園内水交社ニアリシ古  
賀三上山岸各中尉ト連絡セシメタル後川崎ト別レタ  
リ。

（カ）クテ一切ノ實行計画ヲ指示シタル彼ハ豫テ喋シ  
合セタル通り五月十五日夕刻ヲ期シ帝都ノ内外ニ互  
リテ暗殺ト変電所破壊トカ行ハレタルヤ否ヤヲ見届  
ケルベク秘ニ午後五時頃宿所ヲ発シ先ヅ軍部側ノ實  
行状況ヲ視ルベク自動車ニテ警視庁前ニ至リシカ所  
前ハ混乱シテ警戒嚴重ノ模様アリシ為豫テノ計劃通

リ満洲へ逃走スベク午後七時三十分東京駅発列車ニ  
テ西下シ十六日夕刻知人ナリ松江市居谷島根縣新農  
務課勤務枝平比氣孝方ニ宿泊潜伏シタルカ捜査追及  
ノ身ニ迫ルマ遂ニ逃ル能ハハルヲ觀念シ翌朝松江憲  
兵分隊へ自首シタルモノナリ。

又變電所襲撃

(1) 田端變電所 (大貫、高根澤)

東京府下尾久町田端變電所ハ大貫明幹、高根澤共一ノ擔當シタルモノニシテ兩名ハ當日 (十五日) 午前十一時上野駅ニテ會合シ小石川久堅所附近ニテ大貫ヨリ手榴彈一俣ヲ受領シ短刀、パンチヲ購ハシテ午後七時頃目的地ニ至リ高根澤ハ鐵柵ヲ切斷シテ侵入シ手榴彈ヲ投擲シタルモノ不發ニ終リ大貫ハスイツテヲ破壊ヤシトシタルモノモータート冷水機モーター

四個ヲ破壊シ得タルノミニテ兩者ハ各別ニ逃走セリ<sup>七五</sup>  
然ルニ大貫ハ翌十六日早朝豫テ林ヨリ指示サレ居タ  
ル芝區本芝所ニテ同日ニ一番地新村三男方ニ於テ川崎  
長光ト共ニ逮捕サレ高根澤ハ今日終列車ニテ一旦水  
戸市ニ歸リ私娼窟ニテ一泊翌十六日歸郷シテ實父ニ  
事情ヲ打明ケタルニ痛ク叱責サレ翌十七日再び水戸  
市ニ至リテ奉公先ナル柵所納豆商天狗屋ニ立廻リタ  
ルヲ十八日午前一時逮捕サレタリ。  
回電ヲ受電所(矢吹)

矢吹正吾ハ東京府下小松川町下平井ナル標記變電  
所ヲ受持ケ當日土野池一端八千代館ニ至リ温水ノ井  
ヨリ手榴彈一、短刀一ヲ交付サレ途中玄能金櫃ヲ購入  
シテ午後七時十五分頃目的地ニ達シ屋内ニ侵入シテ  
吸上ポンプ用モーターノスポンナヲ破壊シ屋外ニ出  
テ所持セル手榴彈ヲ投シタルモ不発ニ終リタルヲ  
以テ兇器ヲ投棄シタル儘逃走シ市外高田町雜司ヶ谷  
一五坂上真一即方ニ一泊シタルガ今人ヨリノ指示  
モアリ翌十六日早朝出發シテ東海道線下り列車ニ乗<sup>七五</sup>



一旦靜岡驛ニテ下車シ更ニ大阪ニ向ケ乗車シタル  
が途中京都府移動警察官ノ取調べヲ受ケ茨城縣生レ  
鈴木誠ト偽名シタルモ大阪ニテ下車セシムラレ大阪  
有ニ於テ更ニ取調べノ結果逮捕ナルニ至レリ。

(四) 小沼變電所 (稿)

稿五百枚ハ十四日前記ハ千代館ニ宿泊中ノ後藤ヨ  
リ爆彈ニ似テ交付カレ其一ツヲ大貫ニ? 交付シ午  
後七時三十分頃擔當セル東京府下尾久町下尾久所在  
小沼變電所ニ至リ今所ノ冷却装置器ノスネツケヲ切り

所持ノ手榴彈ヲ投擲シタルモ不発ニ終リタルヲ以テ  
川中ニ投棄シ逃走シタルが翌十六日大貫明幹ノ自供  
ニヨリ判明シタル潜伏場所小石川区久堅町九〇漬物  
商武藏屋フト川上フク方ニ於テ同日夕方逮捕サレタ  
リ。

(三) 淀橋際變電所 (温水?)

當日午後七時四十分頃東京府下淀橋町淀橋際變電  
所ニ手榴彈ヲ投擲シ冷却装置建物下部板固ニ一尺余  
リノ穴ヲ穿ラル者アリタルが此犯行ハ温水秀則ノ所

為ト認メラル、エノアリ。今人ハ二十四日午後七時<sup>七八</sup>  
警視廳ニ自首シタリ。

(不) 鳩ヶ谷變電所 (横須賀)

埼玉縣下標記變電所モ亦十五日午後七時三十分頃  
六萬ボルト抵抗器土臺一部及冷却用ポンプ室スイツ  
チヲ切斷公水壓器ヲ破壊セラレタルガ右ハ横須賀喜  
久男ノ所為ト認メラレツ、アリ。今人ハ犯行後鐵路  
名古屋ヲ經テ十八日福井縣敦賀市曙町文化村天洋丸  
機関長市村喜之介 (今人ノ妻之江ハ横須賀ノ母ノ後

妹)方ニ赴キ二十一日迄滞在潜伏シ居タルガ今日午  
後三時敦賀出帆ノ北鮮航路新高丸ニテ横田久雄ト偽  
名シテ朝鮮清津ニ至リ、更ニ元山府高等女學校教師平  
戸五郎方ニ立廻リタルヲ福井縣ノ手配ニヨリ二十四  
日元山警察署員ニ逮捕サレタリ。

(ハ) 目白變電所 (小室)

小室カ也ハ十三日後藤ヨリ手榴彈短刀各一ヲ交付  
サレ當日目白變電所附近ニ至リタルガ既ニ定刻ノ午

後七時ヲ經過シ居リタルヲ以テ實行ヲ中止シ府下在<sup>ハ</sup>。  
原町桐ヶ谷一四八、清水安雄方ニ潜伏シ居タルガ、  
高五百枝ノ取調ニヨリテ其所判明、十七日午前三  
時右清水方ニテ逮捕セラレタルガ、同居人居住ヨリ手榴  
彈一短刀一振ヲ發見シタリ。

3 三菱銀行ノ襲撃

奥田秀夫ハ朝鮮羅南中學校卒業后明治大學豫科ニ  
入學シ現ニ三年在學中ノモノナルガ夙ニ朝鮮在学中  
ノ先輩ニシテ當時在郷中ノ四元義隆（血盟團員ニシ  
テ目下入獄中）方ニ出入スル内全人ヲ介シテ権藤成  
郷並中村中尉等トモ知已トナルニ至レリ。  
然シテ血盟團事件以後ハ茨城縣土浦町山水閣ニ於テ  
古賀中村両中尉等ト數次會合ヲ爲シタルガ四月中旬  
會合ノ際ニハ古賀中尉ヨリ、今回ノ事件ノ計劃ヲ行<sup>ハ</sup>

明ケラレ先ヅ其ノ準備活動ノ役割ノ担当セシメラレ  
タル爲、其指示ニヨリ首相官邸牧野内府邸ハ各々前  
后四回工業俱樂部ハ二回ニ亘リ状況ヲ偵察ヲ爲シ既  
述五月十三日ノ土浦ニ於ケル會合ノ席上詳細之カ報  
告ヲ爲シタルトコロ全時ニ古賀中尉ヨリ別動隊トシ  
テ三菱銀行ノ襲撃ヲ指令サレ、十四日夜中村中尉ヨ  
リ青山四丁目附近ノカフエーニテ手榴彈ニケノ交付  
ヲ受ケタリ。

斯クテ當日タル翌十五日ニハ午後五時半頃三菱本店

及<sup>全</sup>銀行附近ヲ窺ヒタルモ通行人アリテ決行不能ノ爲  
午後七時半頃ニ至リ漸ク三菱銀行横ニ所持セル手榴  
彈ヲ投擲シタルモ道路上ニテ爆発シ豫期ノ効果ヲ奏  
セザリシガ直クニ全所ヲ逃走シ友人ナル府下杉並町  
五一、提方ニ潛伏シ十六日夕刻漂然歸宅シタル所  
ヲ逮捕サル、ニ至レリ。

4、西田税ノ狙撃手

血盟團事件犯人井上、古内ヲ始メ小沼、菱沼等ト親  
密ナル關係アリシ川崎長光ハ右事件發生當時入營中

ナリシ爲危ク直接血盟團へノ参加ヲ免レ居タル者ナ  
ルガ、退營歸郷後ハ表面家業ニ没頭シ從順ヲ装ヒツ  
ツ、モ秘カニ豫而呢懇ナル前記古賀中尉等並愛郷塾  
林後藤等ト往來シ居リ四月中旬ニ至リテハ古賀中尉  
ヨリ今回ノ計劃ヲ打明ケラレ、且「別動隊トシテ裏  
切者タル西田税ヲ殺害スレバク命ヲ受ケ、武器ハ五  
月十四日前殺ノ通リ林正ニテ通シテ交付サレタルヲ以  
テ翌十五日午後七時頃市外代々幡町代々木一四四西  
田税方ヲ訪問シ所持ノ拳銃ニテ全人ニ瀕死ノ重傷ヲ

負ハシメ、同家門前ニ待タシメタル内タリニ乗ジ豫  
而林ヨリ赦示サレ居リタル芝区本芝町新村三男方ニ  
宿泊シ滿洲ニ逃走セントシツ、アリシガ警視廳ニ於  
テハ右自動車運轉手ノ供述ニヨリテ今令新村方ニ潜  
伏セルヲ探知シ十六日早朝新村方ニ於テ前記大貫ト  
共ニ逮捕スルコトヲ得タリ。

(六) 武器並資金入手ノ経路

(1) 手榴彈廿一個ハ三上中尉カニ月下旬上海々軍  
陸戦隊大隊參謀在勤中第三大隊砲術科倉庫ヨリ取出

シ全地ニ於テ村山少尉ニ手交シ村山ハボール紙或ハ  
 新聞紙ニ包ミ佐古保ニ持テ歸リ全地ニ於テ黒岩豫備  
 少尉ニ交付シ全少尉携行上京セルモノニシテ其使用  
 狀況次表ノ如シ

兵農別	軍人			農民				決死隊			別動隊	合計	備考		
	第一班員	第二班員	第三班員	大貫	高根澤	矢吹	嶋	鹽水	横須賀	小室				奥田	
襲撃場所	首相印	日本銀行	牧野邸	警視府	政友本部	警視府	田端	小沼	渡橋	鳩ヶ谷	目白	三菱銀行			
使用個數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
個數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
個數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
個數	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	1	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
備考	不使用ノ五個ハ憲兵隊ニテ押収	不發四個ハ警視府ニテ押収	不發彈八市島檢査	不發彈八岸本檢査	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ	不發彈八警視府ニテ

八七

(四) 拳銃十三挺ハ海軍砲術學校學生タリシ村山少尉<sup>ハハ</sup>  
カ上海事変ニ際シ出征中モ一セル式拳銃中型九挺全  
小型三挺計十二挺ヲ入手シ上海、佐世保間ノ通信艇ノ  
乗組海軍少尉大場春雄ニ托シ全少尉ハ四月上旬頃鉄  
道便ニテ霞ヶ浦航空隊古賀中尉ニ送付セリ他ノ一挺  
ハ南部式ニシテ村山少尉豫テ所持セルモノナリ拳銃  
実弾ハ上海ニ於テ村山少尉ノ手ニヨリ百六十発入手  
古賀中尉ニ送附シタルモノニシテ、此内一挺ノミハ  
前叙ノ如ク古賀中尉ヨリ後藤、林ヲ介シテ川崎辰光

ニ交付シ<sup>タルモノニシテ</sup>他ノ十二挺ハ何レモ東京憲兵隊ニテ押收シ  
タリ。

(ハ) 資金ノ出所ハ調査中ニシテ目下明瞭ナラザルモノ  
アルモ、大貫、矢吹、小室等ノ陳述ヲ綜合スルニ橋ヨリ  
各自ニ、

五月一日 五十円乃至八十円

五月十日 十円

宛ヲ給與シ居リ、又後藤園彦ハ事件當日古賀中尉ヨ  
リ二百円ノ支給ヲ受ケ此内七十円ハ他ノ犯人等ニ手<sup>ハハ</sup>

交セル事實アル等何レカヨリ相當額ノ資金ヲ供給シ  
タルモノアリト認メラレ、極力之カ出所ヲ追窮中ナ  
リ。